

【佐藤威一郎監督からのメッセージ】

映画を製作いたしました監督の佐藤威一郎と申します。

この映画は、去年、2008年に完成しました。完成と同時に、ユニセフ協会様から推薦をいただき、仙台や埼玉、神戸などで、上映会を開いていただいております。今回は、岩手県支部のお力添えで、盛岡と花巻で上映していただいただけの伺い、感謝の気持ちで一杯です。こうした上映会を実現するまでには、色々ご苦労があったことと思います。藤原事務局長はじめ、スタッフの方々に深くお礼を申し上げます。

さて映画ですが、「地球のステージ ありがとうの物語」。

このタイトルを聞いただけでは、どんな内容なのか、さっぱりわかりません。

ここにいらっしゃる皆さんも、「一体、どんな映画なのだろう？」と思っておられることと思います。

映画の内容はわからないけど、誘われたからやってきたという方も多いのではないのでしょうか？

そこで、ご覧いただく前に、まず、タイトルの説明をさせていただきます。

タイトルの説明を聞いているうちに、どんな映画なのかが、おわかりになってくるかと思えます。

まず、「地球のステージ」というのは、この映画の主人公で、映画の音楽や、ナレーションを担当している精神科の医者、桑山紀彦さんのNPO法人の名前です。桑山さんのNPO法人がどんなことをしているのか、「地球のステージ」をごらんになった方もいらっしゃるかと思いますが、初めての方も、映画を観ていただくとわかります。

そして、「ありがとうの物語」……………。

正直言って、どうしてこのような題名をつけてしまったのか、自分にも良くわかりません。でも、自然にそんなタイトルがついてしまいました。

主人公の桑山さんに、これからどのように生きるかを気づかせてくれた言葉がフィリピンの言葉で「サラマーツ」=「ありがとう」…。

それに、映画に登場する子どもたち…、キラキラと命を輝かせて生きることの大切さに気づかせてくれた子どもたちに「ありがとう」…。

ボクたちが映画を作りたいと考えた時、「がんばれ！」と応援してくれた大勢の友人たちに「ありがとう」…。

そして、今日の皆様のように、わざわざ観に来てくださった方々に「ありがとう」…。

そんな思いが込められています。

「ありがとう」という言葉は、人間関係にとってとても大切な言葉だと思います。でも、最近、この言葉を口にすることが減ってしまったような気がします。暗い事件が増えているのも、「ありがとう」という言葉に代表される優しい人間関係が、希薄になってきたからではないかという気がします。

映画をご覧になったのをきっかけに、「ありがとう」という言葉、そして、人間と人間のつながりの大切さを、改めて感じ取っていただきたいと願っております。

1時間40分。ちょっと長い時間ですが、ゆったりとした気持ちでご覧ください。そして、もし、心に感じるものがございましたら、どうか皆様の手で、この映画を広めていただきたいと願っております。今日は、お出でいただいて本当に「ありがとう」…。